



令和7年度岩手医科大学入学式が挙行されました 編集委員長 熊谷 美保



歯学部入学生代表宣誓を行う中川暁太郎さん

祝辞を述べる祖父江理事長

2025年4月9日（水）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにて、令和7年度岩手医科大学入学式が厳粛に執り行われました。式典には、法人役員や教職員に加え、多くの保護者の方々にもご臨席いただき、新入生の門出を温かく見守っていただきました。

今年度は、大学院医学研究科博士課程20名・修士課程5名、歯学研究科博士課程6名、薬学研究科博士課程1名、さらに学部では、医学部130名・3年次編入学1名、歯学部38名・2年次編入学4名、薬学部41名、看護学部78名の新入生を迎えました。

新たなステージに立った学生たちは、晴れやかな面持ちで式典に臨み、会場には凜とした緊張感と、未来への希望に満ちた空気が漂っていました。式後には、保護者と記念写真を撮る姿や、新たな仲間たちと笑顔で言葉を交わす光景が会場のあちこちに広がり、春の日差しとともに心温まる時間が流れました。

今後、新入生たちは、基礎医学から臨床実習に至るまでの多様で充実したカリキュラムを通じ、国家試験合格を目指して歩みを進めていきます。それぞれが選んだ専門の道をしっかりと歩み、医療人として成長していく姿に、教職員一同、大きな期待を寄せています。

歯学の世界へようこそ

第61期38名の新入生の皆さん、岩手医科大学歯学部へのご入学、誠におめでとうございます。今年は特待生制度や同窓生減免制度といった新たな支援制度を導入し、5年ぶりに受験者が100名を超え、多くの優秀な仲間を迎えることができました。かつて「歯科医師過剰」といわれた時代は終わり、2022年からは歯科医師数が減少に転じ、今後は歯科医師不足が社会問題になると予想されています。皆さんが社会に出る頃には、歯科医師がこれまで以上に求められるでしょう。本学は医療系総合大学の強みを生かし、豊かな人間性と確かな知識・技術を備えた歯科医師となるよう、一人ひとりを大切に育成します。6年間の学生生活を存分に楽しみ、学びを深め、人間力豊かな歯科医師に成長してください。



歯学部長
小林 琢也 教授

歯学部だより読者の皆様、こんにちは。九州地方を皮切りに歴史的な早さで梅雨明けの報せとともに気温は急上昇となり、猛暑いや猛夏？と不安にさいなまれながら、国連のGuterres事務総長の言葉 ” The era of global warming has ended; the era of global boiling has arrived. (2023, 地球沸騰化の時代到来だ)” が頭をよぎります。皆様もぜひ健康に留意してお過ごしください。

さて、新年度が始まり約3か月が経ちました。遅くなりましたが、歯学部61期生38名が入学し、「誠の医療人」としての道程を歩み始めたことを報告いたします。彼らの出身地ごとの内訳は北海道・東北23人、関東7人、北陸・甲信越2人、東海1人、近畿3人、中国・四国1人、九州1人です。慣れないことが多いようですが、岩手の地で勉学に励んでいます。歯学部の担任は、薬理学講座 中村正帆 教授、歯科保存学講座 野田 守です。地球沸騰化の話題はさておき、彼ら自身の熱いエネルギーで目標に邁進できるように微力ながらサポートさせていただきます。皆様の応援も何卒お願いいたします。



61期生 1年次副担任
野田 守 教授

61期生の皆さん、岩手医科大学歯学部によろこそ！改めましてご入学おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても心よりお慶び申し上げます。

入学から3ヶ月が経ち、矢巾キャンパスでの生活に少しずつ慣れてきたのではないかと思います。先日、ドミトリー圭友館で開催された夕食交流会「タベルナ・ナイト」に参加し、歯学部1年生を含む寮生の皆さんとお話ししました。日々の授業や学友会活動での取り組みをうかがい知ることができ、皆さんが社会に大きく羽ばたくための第一歩を踏み出されたのだと強く実感しました。これからも心身の健康と安全に留意しつつ、充実した大学生活を過ごされることを願ってやみません。どうぞよろしくお願いたします。



61期生 1年次副担任
中村 正帆 教授

令和8年度入試から新規導入が決定した「総合型選抜」「共通テスト利用選抜の文系科目新規追加」、令和7年度入試より既に導入済の「特待生制度AB、同窓生学納金減免制度」について概要説明します。

「総合型選抜制度」ですが、都市部の3校を除き全ての私立歯科大学は既に導入済です。高校時代の部活動・ボランティア等の活動実績に加え、本学アドミッションポリシー（入学者受入方針）関連項目に関する自己推薦書を事前提出していただき、選抜試験では模擬授業受講後の理解度テストで入学後に必要な学習能力を実際に有しているか判定します。また面接試験で多職種連携可能な医療人に相応しい（協調性、科学的な思考、意欲的勉学習慣を有する）人物を選抜します。

「共通テスト利用選抜の文系科目新規追加」では「地理・歴史・公民・情報」も新規に追加し文系学生であっても、従来より受験しやすくなっています。

特待生制度は2種類あり、A（5名上限）では6年減免総額で2,340万円、B（10名上限）では同様に1,800万円となります。なお対象は大学入学共通テスト利用選抜入学試験及び医学部入学試験利用選抜入学試験の成績優秀者です。

同窓生減免制度では6年減免総額で750万円となり、対象は圭陵会正会員の3親等以内の親族です。特待生制度ABおよび同窓生減免では両者とも本学歯学部を卒業後、5年間本学で研修を行うことを確約できる者が対象となりますが、両制度は併用不可です。

将来の岩手医科大学歯学部をしっかりと支える優秀な人材確保を念頭に置いた制度です。詳細につきましては募集要項（岩手医科大学受験生サイト）にてご確認ください。



詳細情報は
関連HPにて

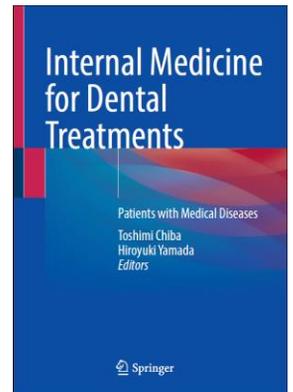
「歯科医師のための内科学」海外から高い評価 関連医学分野 教授 千葉 俊美

本学口腔外科学の山田浩之教授と内科学の千葉俊美教授が企画・編集し、医歯薬出版から発刊した「歯科医師のための内科学」の英文書籍

「Internal Medicine for Dental Treatments: Patients with Medical Diseases」（Springer社）が、米国の新刊書籍を評価する組織であるDoody Enterprisesから5つ星の最高評価を受けました。評価内容は、1. 歯科医師、学生など幅広い読者が対象、2. 前半は症候学を、後半に各疾患を適切に記載、3. 全身疾患に随伴する口腔症状の診断と治療に対する手引書、4. 産科学、精神神経疾患、臓器移植も網羅、5. 写真を多く掲載、6. エビデンスに基づく内容、以上の特徴が認められました。本学歯学部が中心となり企画編集した書籍が、海外で評価されることは非常に喜ばしい事で、今後さらに本書籍が国内外で周知されることを望みます。



2021年3月
医歯薬出版から



2024年2月
Springer社から

新カリキュラムがスタート

教務委員長 武本 真治

2025年4月から新カリキュラムがスタートしました。臨床系のコース制を発展的に解消し、科目として独立させました。各科目の授業は曜日・時限を固定にすることで、学生さんが学びやすくなるようにしました。週1コマの講義で14週の受講で1単位を取得できるようにしています。授業数がこれまでより少なくなっている科目が多いのですが、教員はいままで以上に、学生さんの思考力を高められるように授業で工夫をしていきます。学生自身が一つの授業での事前事後学習をしっかりして、科目での学びを深めて欲しいです。

5年次より本格的に始まる臨床実習は、学生たちが歯科医師としての第一歩を踏み出す大きな節目です。その出発点となる「スチューデントデンティスト授与式」では、白衣を新たに身に纏い、患者さんと向き合う責任の重さと、医療人としての使命を胸に刻みました。ここまで支えてくださった保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。学生たちはこれから多くの学びと経験を重ね、成長して参ります。その姿が、皆さまのご期待に応えるものであるよう、私たち教員一同も全力で支えて参ります。



歯学部生の「今」

大学に入学してから三年が経過しました。三年経て大切だなと感じる事は、学年が上がるたびに変わる周囲環境に慣れていく事です。入学時は、この先がどうなるのかわからず、先の見えない不安でいっぱいでした。入ってからが大変だと聞いていたので、入学をしてからは今までの怠惰な気持ちから、夢をかなえるために日々研鑽しようと心を入れ替えました。高校時代を振り返ると、今こうして毎日やることを決めて勉強している自分に驚きます。四年次の学習内容は、どれも難しく、加えてCBTとOCSEも控えている為、今からしっかり対策を頑張りたいと考えています。まだまだ先は長いですが、今まで歩いてきた道のりを信じていきたいです。

4年生 亀田 朱莉さん



中央 亀田朱莉 (筆者)

大学院歯学研究科博士課程のご紹介

研究科教務委員長 石崎 明

本学の大学院歯学研究科博士課程では、国際的な視野に立って自立して研究活動を行うに足りる高い研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことや、歯科医学と地域歯科医療の発展に貢献する生命科学研究者及び臨床歯科医師を育成することをその目的としています。

令和6年度の3月に博士（歯学）の学位を授与された歯学研究科博士課程修了者は8名でしたが、これらの修了者が発表した博士論文の全ては英語論文でした。また、これらの博士論文8編のうちの7編が、国際的に厳選された学術雑誌を収録するWeb of Scienceの主要なデータベースの一つであるScience Citation Index Expanded (SCIE)に掲載された科学雑誌に、掲載されました。

さあ、あなたも本学大学院歯学研究科博士課程に入学して、研究者としての国際デビューを果たしてみませんか。



新任教授のご挨拶

歯科保存学講座 歯周療法学分野 教授 佐々木 大輔（ささき だいすけ）



このたび、歯科保存学講座歯周療法学分野の教授を拝命いたしました。本学歯学部33期生として、母校に貢献できることを心より誇りに感じております。歯周組織再生療法や歯周医学の深化に取り組むとともに、講座の発展、そして医局員および学生の人材育成に力を注いで参ります。ともに学び、成長できる教育環境の実現を目指し、教室一丸となって努力して参ります。今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野 教授 今 一裕（こん かずひろ）



令和7年4月1日から、歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野の教授を拝命いたしました。

前教授である近藤尚知先生（現、愛知学院大学 教授）にお声かけをいただき、准教授として本学に赴任して以来、地域医療の充実と発展、学生・大学院生に対する教育活動、研究活動に務めてまいりました。また、歴史ある歯科補綴学第二講座の流れを汲む教室を担当することとなり、非常に身が引き締まる思いで、果たすべき責任の大きさを感じております。

本学および歯学部の発展に、分野医局員一同、一丸となって貢献いたします。今後とも厚いご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

部活動の紹介

歯学部弓道部



弓道部は4学部の学生68人で活動しており、そのうち23人が歯学部生です。月、水、土曜日の週3回、矢巾キャンパスにある弓道場（彰成館）で練習しています。毎年6月に持ち回りで行われる新潟大学歯学部弓道部さん、東北大学歯学部弓道部さんとの歯学部三大戦、8月の全日本歯科学学生総合体育大会（全歯体）でよい成績を残すことを目標にしています。そのほか他学部の大会や医療系以外の他大学弓道部さんとの交流も行っています。弓道は自分自身との戦いです。自身の射と向き合い、「中てたい」「勝ちたい」という弓道における邪な気持ちを無くすことで素晴らしい射を成せるように今後も精進してまいります。応援よろしくお願いいたします。

編集後記：編集委員長 熊谷 美保



入学おめでとうございます。同窓会は、皆さんが安心して学び、充実した学生生活を送ることができるよう、さまざまな形でサポートしていきます。困ったときや悩んだときには、ぜひ仲間や先輩たちを頼ってください。未来の歯科医療を支える立派な歯科医師へと成長していくみなさんを、心から応援しています！

発行：岩手医科大学歯学部 編集：広報委員会

本誌に関するご意見・ご要望はkouhou-d@iwate-med.ac.jp まで
写真は執筆者各位の提供により掲載しております。



Follow me!



@IMU_DENTISTRY